

# 日本人の れもの

京都、こころここに

毎年、桜の盛りになると惟喬親王は側近の在原業平ら呼んで、離宮がある水無瀬から付近一帯に遠出して花見に興じていた。伊勢物語には、そんな9世紀後半頃の花見の様子が記されている。



## 上下の区別なく 酒飲み和歌詠む 花見の宴

「狩はねむろにもせて、酒をのみ飲みつつ、やまと歌にかかれりけり。いま狩する交野の渚の家、その院の桜ごとにおもしろし。その木のもとにおりあて、

枝を折りてかきしきぎして、上中下みな歌よみにけり」。

桜が見事に咲いていると、狩りなどぞつちのけで、木の下に座り、酒を飲み、桜の枝を髪に挿して和歌を詠む宴に熱中している。それも身分の区別なく、上位の者も中・下位の者も一緒になって…。



上下の区別なく大勢で楽しむ花見の習慣は、日本だけのもの。花の下で開く「集い」が文芸や芸能などさまざまな文化を生み育てた。

# 人と共にあることの安らぎや 心地よさを次世代に伝えよう

物語の上でのフィクションがあるにしても、やはり花見の宴は集まり共々楽しんでこそ「楽しい」のである。

伊勢物語から千数百年、日本人は今日

「楽しい」の文化は広い範囲に及ぶ。日本に「桜があったから」ではない。千年以上わたって「花見が行われてきたから」である。植物学上のサクランボ、日本以外にも北半球の温帯全域に広く分布している。サクランボの役割は無視できないけれども「花見の「桜」よりは「集い」が文化を生み育てたのである。

いまも学校や職場単位で、また家族や友人と共に日本人は花見に興じる。上下の区別なく楽しめる場が花見の理想だからである。そのような心情が日本の各種の「集い」を生み出してきた。

忘年会や新年会、歓迎会や慰労会、



戦後、日本人は物の豊かさや引き換えに大切なものを忘れてきたのではないだろうか。日本人が忘れつつある価値観が今も生き続ける千年の都・京都から温故知新の知恵を発信する。(毎週日曜日に掲載します)

## 集う楽しみ

国際日本文化研究センター教授  
白幡 洋三郎さん



しらはた・ようざぶろう 1949年、大阪府豊中市生まれ。京都大農学研究科博士課程修了。農学博士。京都大助手を経て、7年から日文研勤務。専門は都市文化論、産業技術史。著書に「プラントハンター」「近代都市公園史の研究」など。

までずっと花見を続けてきた。しかも江戸中期以降の花見は、公家も武家も農民も商人もそして都市の下層民ですら(落語の「長屋の花見」のように)楽しむことができた行事になっていった。花見は日本以外では見られない珍しい文化である。

あるいは近頃新しい表現の「女子会」など、「集う楽しみ」は、この国にはたくさんあり、また新しく開発されたりしている。これらの生みの親は「花見」と見てもよい。

## 騒がしくても 生み育てられた 上品な文化

ところが、桜は好きだが、花見は騒がしくていやだ、下品だという人がいる。たしかに花見の場では迷惑な困った振る舞いが見られることがある。

もちろんすべての集いが心沸き立つ催しとは限らない。そこで昨今は、こうした「集う楽しみ」をわずらわしく思い、過小評価したり嫌ったりする風潮が強まっている気配も感じられる。

## わずらわしく思う 風潮が 強まる気配

大事なのは人と共にあることの安らぎ、心地よさ、すなわち集う楽しみをまずは素直に受け止めること、そしてさらにによりよい集いの文化として次代へ伝えてゆくことではないか、と思うのである。

## 日本の暦 事始め

事始めは、正月事始めとも呼ばれ、昔から師走に迎春準備を始める日でした。すずみは、その代表です。

京都では今も旧暦と同じ12月13日が事始め。弟子が師匠へ、分家が本家へ進物を持って伺い1年の感謝を捧げます。祇園の花街に残る事始めの風習は「おことーさんどす」のあいさつとともによく知られています。

日本で古代から江戸中期まで使われた「宣明暦」では、毎年12月13日は必ず「鷹注・二十七宿の「鬼宿」に当たり、最大吉運日でした。年末至くじを買ったこの日かもしれませ



ウクライナとの交流  
人づくりの芸術教育

「子どもたちが素晴らしい人と出会い、本物のアートと出会う。これこそ人生の土台、困つくりだ」と思い1975年、当時のソ連邦とハレエ芸術で交流を始めました。「百聞は一見にしかず」の言葉通り、両国の子どもたちは文化・芸術を学び心豊かなアーティストとして世界に羽ばたいています。

寺田ハレエの卒業生たちも日本人であることの誇りとハングリー精神を持ち、感謝と謙虚を忘れずに学び通している姿に私自身誇りを持ち、生きがいを感じています。

モスクワ五輪ボイコット、ソ連邦からのウクライナ独立、チェルノブイリ原発事故など危機の中でも、今日まで交流が続いているのは芸術家同士の友情そのものです。命をかけて行動しても先の見えない時代に、異国の方々より教えられる日本人が失いつつあるものを忘れないためには、やはり芸術教育こそ最良の治療薬と自負しています。

世界の人の憧れの街、京都・吉田の地でアーティストが集まり、責任を持って世界に発信すべき時が来たのではと痛感しております。

（次回12月18日のリレーメッセージは、国際墨アート作家の河原林春陽さんです）

（日本人の忘れもの）は、京都新聞ホームページ  
http://kyonon.jp/kp/kyo-np/info/nwc/1/をご覧ください

# 魅力きわだつ冬の北陸へ。 サンダーバードで快適に!

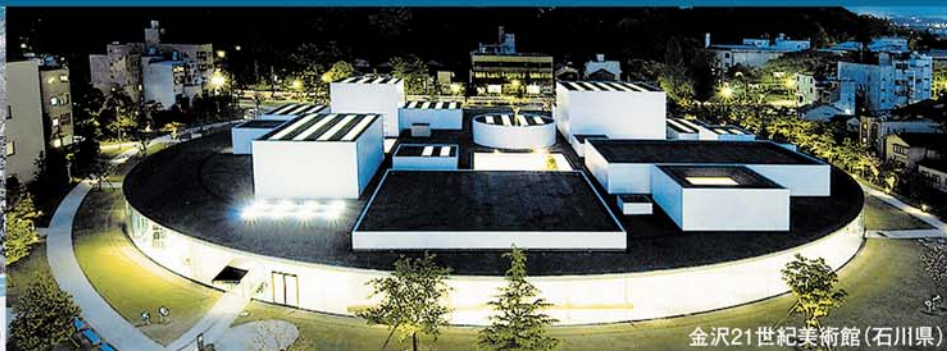


京都からの  
所要時間

福井へ 約1時間25分  
金沢へ 約2時間15分  
富山へ 約2時間50分



五箇山(富山県)



金沢21世紀美術館(石川県)



東尋坊(福井県)

## Japanese Beauty Hokuriku キャンペーン〈12月~3月〉

北陸に息づく、技と芸を体験「記憶に残る観光」を!

### 富山 癒楽甘 春々堂

薬膳カフェ「癒楽甘 春々堂」では、薬膳メニューや体験教室などが楽しめます。期間中は、1,000円以上ご利用の方に「ハーブ入浴剤づくり無料体験」、または「廣賢堂キティの根付」をプレゼントします。

- アクセス/富山駅から徒歩約3分
- 営業時間/10:00~19:00  
(オーダーストップは18:30)
- ※1月1日・17日、2月21日・22日は休業
- お問い合わせ/☎076-444-7198



### 金沢 金沢和菓子めぐり

金沢自慢の和菓子を4商品も味わえる、おトクなクーポン「金沢和菓子めぐり」を500円で販売。お店周辺には観光スポットがたくさんあるので、街歩きと一緒に楽しめます。

- ご利用期間/3月31日までの毎日
- ※1月1日・2日は除く
- ※各店舗により営業時間、定休日異なります。
- お問い合わせ/☎076-253-5222  
(JR西日本金沢支社営業課)



### 福井 「芦原芸妓とお座敷体験」

北陸随一の芸達者といわれる「芦原芸妓」。「芦原芸妓とお座敷体験」では、稽古場である「検番」で、芸妓さんと太鼓などのお座敷遊びが体験できます。

- アクセス/えちぜん鉄道あわら湯のまち駅から徒歩約2分
- 体験日時/1月13日から3月31日の毎週金・土曜14:30~(約60分)
- 体験料/2,500円(お茶と和菓子つき)
- お問い合わせ/☎0776-78-6767(あわら市観光協会)



※写真はすべてイメージです。

キャンペーンについて詳しくは  
駅のパンフレット「北陸冬物語」  
または JRおでかけネット 検索



前日までに要予約  
各日30名まで